

コロナウイルス感染対策に「自然エネルギーを利用した換気装置」の活用を提案いたします！

新型コロナウイルス対策では、30分に1回以上の窓開け換気、空気の流れを作るため二方向の窓を開放が必要とされておりますが冬季には困難で又猛暑の夏季には密閉された室内でエアコン利用は炭酸ガス濃度が上がり不快な環境で過ごす人が見られます。（人間は、1時間に6畳間程度の新鮮空気が必要で、無換気8畳間寝室では炭酸ガス濃度一人で3000ppm 2人では4000ppmになります）窓を閉じたまま室温の変化が少なく常に空気の入れ替えが行われることが理想と考えられます。

【給排気が同時に作動する自然換気装置】発明（呼吸する換気口）

佐々木隆 岩手県立大学名誉教授指導の下で開発33年、北海道北方建築総合研究所との共同研究により自然換気効果が実証され結露、カビ、臭い対策に採用されております。

○四季を通じて自然風が得られる「パッシブ換気口」発想の基

- ・自然換気のコントロールは低気密建物では不可能ですが、高気密建物では可能です。
- ・水と空気は同じ特徴があり高気密な所では、出た量しか入らない（醤油注しの瓶と同じ）

○人と建物に優しい（呼吸する換気口）の特徴

①三密対策に温度差換気作用（部屋の上部に汚染空気が籠らなく、家庭内感染対策に効果）
給気口と排気口を設け高気密対応、外部フードは煙突効果で排気作用の構造。

②クラスター対策に風力換気作用（通風効果が得られます）

換気口通気部は空気抵抗値の少ない形状で対角に取り付けは自然通風が得られ、又換気扇と併用しますと通気率の良い、メンテナンスの容易な換気口より吸気され風通しの良い空間が得られ、店舗、飲食店、老人施設、学校等で採用。

③冷暖房時の消費エネルギーロスの少ない「自然換気口」

室内側に配置したダンパー上部で室内外空気が混じり合いダウンドラフト緩和により室温の変化が少なく、通年ダンパーの開口部調節で新鮮空気が得られ電気料金高騰時の省エネ「パッシブ換気口」。

◆ショールームで空気の流れを目と体で体感してみませか◆

有限会社 グッドマン

〒064-0804 札幌市中央区南4条西14丁目1-24

TEL011-563-0744 FAX011-563-0713

URL:<http://www.kankiko.com>

E-mail goodman@kankiko.com